

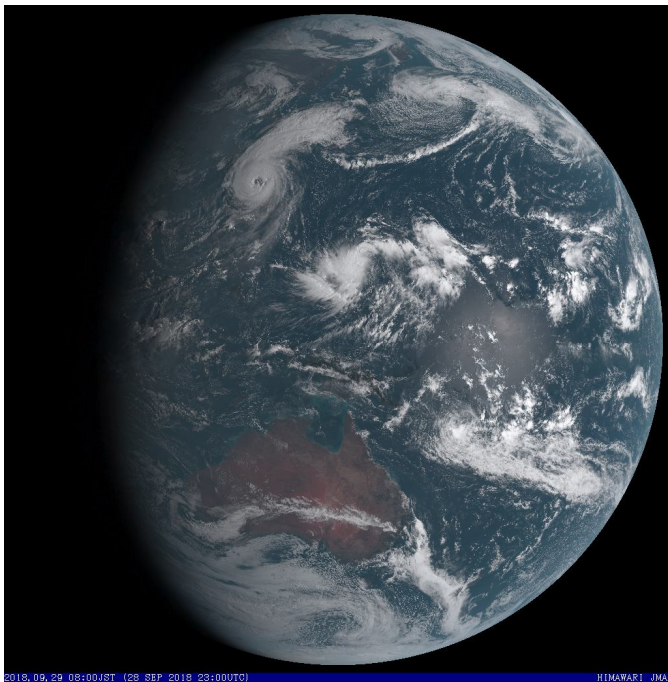
「動く台風24号を持ち帰る(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

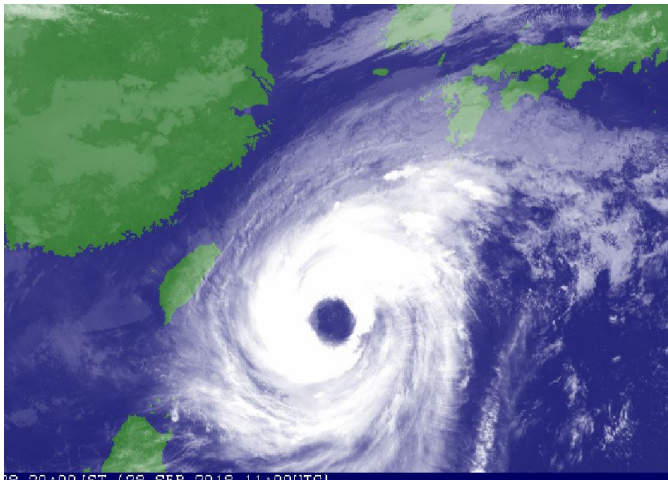
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

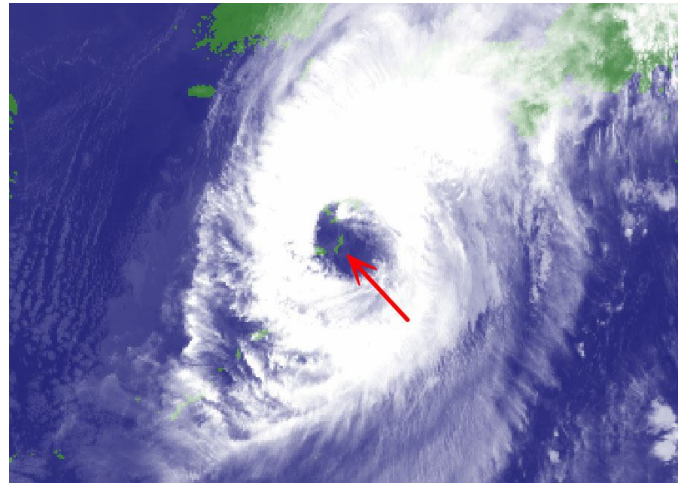
9月下旬に日本列島に近づいた台風24号は、大きく強烈で、多くの被害を出した。列島を縦断する形の、典型的な「秋の台風」の経路だった。本校もこの台風の「被害」を受け、月曜日は家庭学習になってしまった。しかし、東京の鉄道やターミナル駅は大混乱、児童を登校させなかったのは、正しい判断だった。



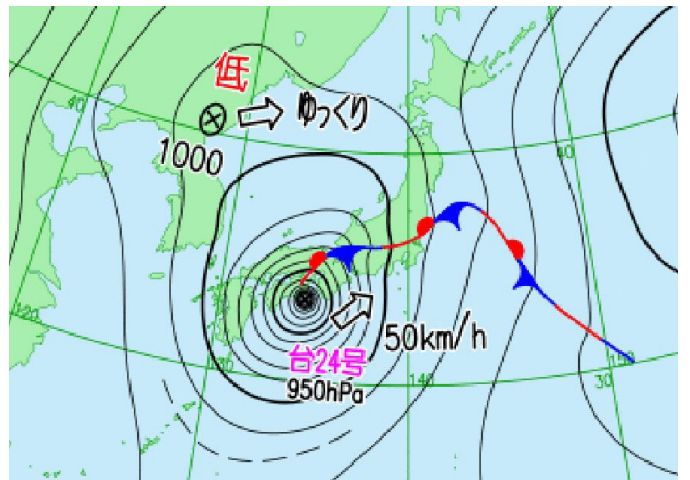
これは台風24号の全球可視画像である。一目見て、強烈な台風とわかる。前線も含めると、北緯25度から45度付近までを覆いつくし、日本列島は見えない。



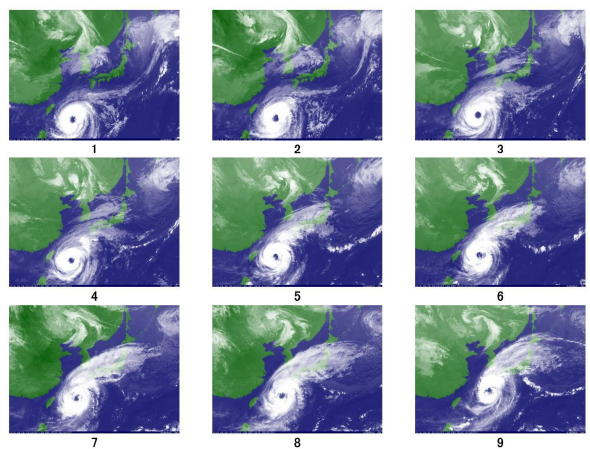
台湾の西を通過中の台風25号。目がはっきりしている。ここまで巨大な目の台風は珍しい。



九州に近づいても台風は全く衰弱せず、目ははっきりしたままだった。この赤外画像では、海面がはっきりと見え、しかも種子島が完全に目の中に入っている。当時種子島では、快晴になりほとんど無風になっていた可能性がある。



四国から紀伊半島に接近しても、台風の中心気圧は950hPaと、依然強力な勢力を保っている。速度も時速50kmとなり、台風の右側は相当な南風になった。



家庭学習になった月曜日、私はこの「貴重な台風試料」を集めていた。特に赤外雲画像が重要だ。可視画像では、夜間の雲の動きや台風の形がわからないからだ。これだけあれば、授業で確実に使える。